



ケイヨウキンコウケイヨウイン

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい!! 千葉のおもしろ博物館

第9回

千葉県立房総のむら(印旛郡栄町)



インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

体験・実演・展示で五感を通して 歴史を学ぶ、楽しみ満載の博物館

千葉県立房総のむらは、房総の伝統的な生活様式や技術を展示するだけでなく、みる・きく・かぐ・あじわう・ふれるの五感を通して体験し、学んでもらうことを基本コンセプトとしています。皆さんが体験をしながら、県内各地から出土した考古遺物や、武家・商家・農家などの展示を通して歴史を学んでいただくことを目的とする博物館です。

そのため当館では、多くの演目をご用意しています。武家・商家・農家を中心に館内の各所で1年を通して行われている体験・実演・展示は400種類以上にもなり、来館者の皆さんは自由に選んで参加することができます。来館するごとに新しい演目に参加される方や、お気に入りの体験をしに何度も来館される方もたくさんいらっしゃいます。

また、年に6回の「おまつり」の開催、武道等の演武、民俗芸能の上演、企画展など数多くの催しを実施しています。特に「むらの縁日・夕涼み」では暗くなる午後7時30分まで開館時間を延長します。農家を利用した怪談話などは「ものすごく怖い!」と毎回とても人気です。

昔の作業場を再現した空間で行う作業体験も多くの方に参加いただいています。特に人気が高いのは千代紙ろうそく作りや鍛冶体験、茶道体験などです。

国重要文化財である旧学習院初等科正堂（明治初期の建物で、昭和天皇も学ばれた由緒ある建物）や旧御子神家住宅、県指定文化財の旧平野家住宅といった、実際に移築された本物の歴史的建造物も多数存在し、こちらもおすすめです。体験や見るものがとにかくたくさんありますので、何度も来て楽しんでいただければ幸いです。



千葉県立房総のむら
広報 長谷川 浩士さん

千葉県立房総のむらとは？

千葉県立房総のむらは、「房総風土記の丘」（考古学専門の博物館）の隣接地に、1986年に建設されました（その後統合）。江戸時代後期～明治時代初期の町並みを再現し、むらの各所でさまざまな体験が出来る体験型博物館です。

龍角寺古墳群・岩屋古墳、旧学習院初等科正堂、旧御子神家住宅など、国の史跡・重要文化財も良好に保存されています。

また、近年では明治～昭和初期の時代設定の映画やドラマのロケ地として頻繁に利用されています。



商家の町並み

香取市などに残る古い町並みを参考に、商家16棟と総屋・地蔵・辻広場・稲荷境内で構成されており、人々で賑わう町場の景観を再現しています。町並みは、視覚的な効果を得られるように配置されています。

原始・古代の時代から、江戸・明治の時代まで、2つのエリアで歴史を感じる

敷地は大きく「ふるさとの技 体験エリア」と「歴史と自然を学ぶ 風土記の丘エリア」に分かれています。「ふるさとの技 体験エリア」には、江戸時代の商家、武家屋敷、農村などの復元展示や江戸時代後期から明治時代初期の町並みを再現しており、映画やドラマのロケ地としても有名なスポットになっています。

江戸時代の武士やその家族が習得した稽古事から村の鍛冶屋など、さまざまな伝統技術の実演や体験が1年を通し館内の各施設で行われていて、来るたびに新しい体験をすることができます。

「歴史と自然を学ぶ 風土記の丘エリア」には、日本でも有数の古墳群である、丘陵地に設けられた国の史跡「龍角寺古墳群・岩屋古墳」のほか、移築された歴史的建造物や千葉県内で発掘された出土品を展示している「風土記の丘資料館」などがあります。

ここに移築された建造物には、国重要文化財の学校建築「旧学習院初等科正堂」、1780年に安房郡丸山町(現・南房総市)に建てられた重要文化財「旧御子神家住宅」と県指定有形文化財「旧平野家住宅」の2棟の民家建築もあります。



江戸時代の商家が再現され、自由に入ることができます。実は見学しやすいように江戸時代のものより間口が広くとられています。



▲「武家屋敷」。佐倉藩士の中級武士の武居家をモデルに再現しています。主屋へ上がれて、調度なども見学できます。



▲「旧平野家住宅」。1751年、富津市で建てられた名主の民家が移築公開されています。県指定有形文化財(建造物)。



▲「岩屋古墳」。115基からなる龍角寺古墳群の1つで、一辺約80m、高さ約13mの全国最大規模の方墳です。国指定史跡。

「歴史と自然を学ぶ 風土記の丘エリア」には赤レンガの外観が印象的な「風土記の丘資料館」があります。千葉県内各地の遺跡から出土した考古関係資料が展示されていて、最新の調査成果を基に、房総の歴史を紹介しています。



「旧学習院初等科正堂」。1899年に学習院初等科正堂(講堂)として建てられたものが移築公開されています。西洋建築のデザインを取り入れながら、日本の伝統的な木造建築の技術で造られた、この時期の数少ない講堂建築として貴重です。国重要文化財に指定されています。

すごい!このホンモノを見逃すな!

農村歌舞伎舞台

これ見て!



エリア内を通る県道にかかる橋を渡り北側に向かうと、広々としたおまつり広場があり、そこには広場を見晴らすように建てられた堂々とした農村歌舞伎舞台があります。近づいてみると、太い梁が張られた見事な建物で、思わず見とれてしまう風格があります。

この建物は、もともと成田市(旧香取郡大栄町前林地区)にあった歌舞伎舞台で、地区の神社で拝殿として使われていて、1875年に建築されたと言われています。舞台中央には回り舞台の仕掛けがあり、舞台の下(奈落)で心棒を人力で回すような構造になっています。

江戸時代の終わり頃、千葉を含めた関東地方の農村では、若者たちが中心になった



芝居の上演が盛んに行われました。演目は江戸の歌舞伎を地元の人々が真似たようなものであったと言います。お祭りの日などに村の仲間たちが着飾って歌舞伎を演じるのが大きな楽しみだったようで(人々の笑顔の光景が浮かびます!)、たびたび上演されていました。

普段は舞台に設置された太鼓を自由に叩けるようになっているので、歴史を感じながらぜひ試してみましょう。

イベントに行ってみよう!

このようなイベントもやっています



【むらの縁日・夕涼み】

房総のむらでは、毎年8月の第一土曜日、第一日曜日には特別イベント「むらの縁日・夕涼み」が開催されます。「涼む」をテーマに、夏ならではの製作体験や怪談話、大道芸など、縁日の賑わいや夕涼みの雰囲気を楽しめます。



【茶道体験】

佐倉藩士の中級武士の武居家をモデルにした、武家屋敷の離れでは茶の湯体験も実施されていて、お茶のいただき方や茶室での礼儀作法などが体験できます。時期により離れの芝生でお茶席(野点)も行われています。

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第9回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、千葉県立房総のむらで人気の展示、商家の町並みがあるのは何エリアでしょうか。

次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① ふるさとの技 体験エリア
- ② 歴史とお祭り 体験エリア
- ③ 江戸・明治の町並み 体験エリア

取材協力・撮影協力・写真提供／千葉県立房総のむら

プラス  で、未来をともし。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



2025.9
(次回発行予定/
2025年10月20日)

正解は→① ふるさとの技 体験エリア